

磯打千雅子特命准教授らの「チームサツキ」が
令和3年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞



11月5日、磯打千雅子特命准教授(四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構)が2018年7月豪雨で被災した倉敷市真備町の住民有志とともに取り組む団体「チームサツキ」の活動が、「令和3年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

チームサツキは、2018年7月西日本豪雨で被災した倉敷市真備町において、クラウドファンディングを活用して、被災者が地域に戻れるように賃貸住宅を改修し、住民の住まい・交流の拠点として整備するとともに、災害時は一時避難場所として、建物上階への避難を容易にするための坂路の整備に取り組んでいます。創意工夫に富み、他地域への波及効果が認められる活動を全国に発信しているこの取組は、防災意識の啓発活動として高く評価されました。



上田夏生教授が国際学会で
学会賞を受賞しました

上田夏生教授(医学部 生体分子医学講座 生化学)は、6月21~24日にオンラインで開催された第31回国際カンナビノイド学会(International Cannabinoid Research Society)で、「Mechoulam賞(学会賞)」を受賞しました。2000年に創設された同賞を日本人研究者が受賞するのは初めてのことです。

乱用薬物の一種である大麻(マリファナ)が興奮を引き起こす仕組みが調べられた結果、「エンドカンナビノイド・システム」と呼ばれる情報伝達系が体内に発見され、大麻の精神作用は、大麻に含まれるカンナビノイドと呼ばれる成分が脳などに存在する受容体に結合し、この情報伝達系を攪乱することで生じることが明らかにされています。本学会は650名以上の会員を擁する国際学術団体で、カンナビノイドやエンドカンナビノイド・システム等についての研究の振興を目的としています。上田教授は、25年以上に渡り、ヒトの体内に存在するマリファナ様物質(エンドカンナビノイド)の合成や分解を触媒する酵素の解明に取り組み、新しい酵素の発見やcDNAクローニングなど、一連の成果が評価されました。

香川県及びノバルティスファーマ株式会社との
循環器病対策に関する産官学連携協定を締結しました

12月16日、香川県庁において、ノバルティスファーマ株式会社、香川県、本学の3者間での「循環器病対策に関する産官学連携協定」を締結しました。本協定は、3者が連携協力し、循環器病の予防及び対策に関する取組を実施することにより、県民の健康寿命の延伸、循環器病につながる生活習慣病対策、小児生活習慣病予防健診を通して次世代からの虚血性心疾患予防、循環器病による死亡率の低下、循環器病患者のQOLの向上を目的とするものです。香川県における死因は「悪性新生物」に次いで「心疾患」が多いとされ、その大きな要因の一つに糖尿病などの生活習慣病があります。特に香川県では、長年、糖尿病患者が多く、県民病とも言われています。本協定の取組である、循環器病につながる生活習慣病対策や正しい知識の普及啓発、医療・福祉サービス提供体制の充実などを行うことで、地域の皆様の健康増進に繋がることが期待されます。



徳田雅明名誉教授に
タイ国立チェンマイ大学から
名誉博士号(医学)の称号が
授与されました



1月14日、本学の大学間協定校であり、海外教育研究拠点校3校の一つとして重点的に交流を継続実施しているタイ国立チェンマイ大学から、徳田雅明名誉教授(インターナショナルオフィス特命教授)に「名誉博士号(医学)(Honorary Doctoral Degree in Medicine)」の称号が授与されました。徳田名誉教授は、医学部国際交流委員会委員長及び国際戦略・グローバル環境整備担当副学長として、合同シンポジウム等の開催、学生・教員の人事交流、希少糖の生活習慣病に関する共同研究、胎児心拍モニターを用いた遠隔医療の共同実施、医学部附属病院での研修交流事業等、教育・研究・社会貢献の分野で、長年にわたりチェンマイ大学と共同事業を実施し、両大学の良好な関係を強化するとともに、チェンマイ大学ならびにチェンマイ地域コミュニティに多大な貢献をしたと評価されました。今回の名誉博士号授与により、今後の両大学の更なる協同的發展が期待されます。

高尾英邦教授の研究グループが
Journal of Robotics and Mechatronics誌の
The Best Paper Award 2021を受賞



12月22日、高尾英邦教授(創造工学部 機械システム工学領域長・微細構造デバイス統合研究センター長)の研究グループがJournal of Robotics and

Mechatronics 誌で発表した論文が、同誌における「The Best Paper Award 2021」を受賞しました。本賞は、前年を通じてJournal of Robotics and Mechatronics誌に掲載された全原著論文(2020年は全114件)の中から、Editorial Boardによる厳正なる審査を経て1件の論文を選出するものです。高尾教授の研究グループは、人間の指先が持つ繊細な触覚を上回る能力を示す高性能触覚センサーにより、従来は識別できなかった繊細な違いを持つ対象の手触り感を識別可能としました。現在も医学、美容、健康、介護技術の分野をはじめとする様々な共同研究を展開しており、人間の手が持つ触覚の限界を超える新しいセンシング技術の創出に取り組んでいます。

希少糖最前線



産官学連携による長年の取組の成果である希少糖D-アルロース(D-ブシコース)純品が、日本国内で全国販売されることとなりました。希少糖D-アルロースは、ゼロキロカロリーで砂糖の7割程度の甘味度を有しており、抗肥満、血圧上昇抑制作用、脂肪燃焼促進効果などの生理機能が、本学を中心とした産官学連携研究により認められています。10月6日、戦略パートナー企業の松谷化学工業株式会社は、希少糖D-アルロースをブランド名「ASTRAEA(アストレア)」として全国販売を開始。さらに、様々な産官学連携研究を取りまとめた研究レビューを有効性根拠として、希少糖D-アルロースの結晶を用いた粉末清涼飲料「アストレア プロ」を機能性表示食品として消費者庁へ申請し、11月17日に届出が受理されました。

香川大学 寛学長とあいおいニッセイ
同和損害保険株式会社 金杉社長による対談を実施



8月18日、FM香川にて放送中のプログラム「香川大学 NEXT STAGE」の特別企画として、寛学長とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社金杉社長による対談を行いました。香川大学とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、現在、全国の標準的中核市である高松市と香川県西部地域の主要市である三豊市をフィールドとした交通インフラの在り方や維持について検討し、快適な移動空間・移動手段を模索すべく、「地域社会の課題解決とMaaS等に係る研究—2050年のWell-beingの高い地域社会の構築を目指して—」と題した共同研究を実施しています。今回の対談では、連携協定の締結に込めたそれぞれの思い、共同研究を通じた地域課題への取組、大学と企業の人事交流などについて意見交換を行い、大変貴重で有意義な対談となりました。

文部科学省「情報ひろば」において企画展示を実施しました



文部科学省「情報ひろば」企画展示室において、11月12日~12月20日にかけて、「うまげながわ感じてみまいる!うどん県住みます学生プロジェクト」について展示を行いました。本事業では、東京圏と地方圏の複数の大学が学生の対流等に関して組織的に連携するとともに、東京圏の学生が地方の特色や魅力等を経験できる取組を推進することで、地方への新しい人の流れを生むとともに、地域に根差した人材の育成を図り、地方創生の実現につなげることを目指しています。プログラムの実施を通して、大学間連携だけでなく、自治体や地元企業との連携も活発化してきています。各方面からの支援によってプログラムの充実が図られるとともに、新たな成果が目に見える形で現れ始めており、今回の展示では本学が本プロジェクトにおいて果たす連携ハブとしての役割をパネルや動画を交えて紹介しました。



石原良純氏によるキャリア支援特別授業を開催!!
『気象予報士に挑戦したワケ』~良純流、キャリアの描き方~

11月24日、「香川大学生のためのキャリア支援特別授業」が幸町キャンパスで開かれました。第1部は、俳優・気象予報士として活躍されている石原良純氏の特別講義でした。芸能界に入った後、気象予報士になった経験や今後社会に出ていく中で大事なこと、心構えなど、学生の目線に立ったお話をしていただきました。第2部では、石原氏と松本真由美先生(東京大学客員教授)による「2050年日本の姿とは?~カーボンニュートラルとエネルギーの未来を考える~」というタイトルでトークセッションが行われました。この特別授業は、キャリア理論や事例を学ぶだけでなく、様々な刺激を受けてもらおうと、キャリア教育の一環として毎年行われている人気の授業です。